

第7回 日向工業高等学校建築科「よのなか教室」

平成27年10月14日（水）

講師：河野 亘 氏【ヤッシュ】

テーマ：「生きていく上で大切なこと」

私は、日向市で有限会社ヤッシュに勤めています。小学校から高校入学までは、特に問題無く過ごしていたのですが、もともと勉強が嫌いだったので、高校時代あまり熱心に勉強しませんでした。その結果成績が芳しくなくなっていき、学校で禁止されていたアルバイトをし始めました。それが学校に見つかって、謹慎になったこともあります。家や学校との確執もあったのですが、大学は絶対に出ておけと言われて、福岡の大学に進学しました。しかし、学校になじめず二十歳で中退してしまいます。どうしようかと思っていたところ、宮崎市にあるIT関連の会社に拾ってもらい、東京の支社に配属になりました。仕事ができるようになった頃、親が会社を立ち上げると言うことで、帰郷し一緒に会社を運営しています。今日は高校生と言うことで、仕事をする上で大事だと思った事を伝えていきたいと思います。

- ① 「おしゃれに気を遣え」・・・TPOに合わせ臭いをかぎ分けられるセンスを磨く。
- ② 「お金で解決できることは目標にするな」・・・仕事以外の道に逸れる恐れがある。
- ③ 「コネはどんどん使え※消耗品」・・・入口の問題、あとは自分の信用でつなぐ。
- ④ 「真面目過ぎる人にはなるな」・・・真面目と冗談の緩急がつくのが大事。
- ⑤ 「頑張るだけでは限界がある」・・・がむしゃらに頑張るだけではなく、工夫をする。
- ⑥ 「後悔はする」・・・起きたことは引きずらず、どんどん捨てて前を向く。
- ⑦ 「年配者のアドバイスはとりあえず聞く」・・・思いもつかないアイデアを持っている。
- ⑧ 「三ヶ月毎にできる事を増やせ」・・・小さな積み重ねでもできる事を増やす。

サーカスで小さいときから飼われている象は、逃げられるようになっても逃げないそうです。なぜだか分かりますか？自分に力があるのに、小さい頃のトラウマやコンプレックスで動けないからです。人間も同じです。自分はできないと思っている人は、そんな考えは捨ててください。将来できる大きな事を、自分で制約してしまっているかも知れません。



～生徒の感想～

- 河野さんの話を聞いて、共感できる点が沢山ありました。おしゃれに気を使うと言われたとき、時と場合によって服装を決めるのだと知って、確かにそうだと感じました。また、まじめすぎる人にはならないという言葉がありました。僕はこれまで、真面目な人の方が周りからも好かれ、将来苦労する事も少ないと思っていました。しかし、これが過ぎてしまうと、大事な部分とそうで無いところの区別がつけられないというデメリットがある事を知り、上手に切り替えのできる人間になろうと思いました。河野さんはまた、「後悔は沢山すると思うけど、引きずっていないで適度に捨てて前を向いて行くことが大切」と教えてくれました。生きていく上で、切り替えの大切さを知りました。河野さん自身、東京にいたときに様々なお金の使い方後悔したそうです。僕は大人になってやっていけるのか、少し不安になりました。いずれは社会人になって働くことになる僕たちも、お金の使い方は考えないとけません。これまでの少ない人生の中で、後悔は何度もあります。後悔をしないためにも今を適度に頑張る事で将来へ進んで行きたいと思います。＜中川和由希＞
- 今日の講話を聞いて分かった事。1つ目は、東京の人は冷たい事です。財布を落としたら盗まれる事があるそうです。人が倒れていても助けてくれない事には、ひどすぎて驚きました。冷たい人には絶対になりたくありません。2つ目は、真面目すぎる人にはならないこと。真面目な事は悪くは無いけれど、真面目すぎるとはいけない事です。面接を受ける場合などで、真面目すぎるとは大事なことを上手に伝えられないそうです。私は約2年後に就職試験があります。そのときまでに真面目すぎない真面目な人間になりたいです。3つ目は、後悔は捨てる事です。後悔を引きずっては何も始まらないようなので、捨てた方が良さそうです。私は後悔を引きずる癖があるので、そこを直して上手に捨てられるようになりたいです。4つ目は、お金で解決できることは目標にしないということです。お金で解決してしまうと方向性がずれる事があるそうです。5つ目は、コネはどんどん使うことです。6つ目は、年配の方のアドバイスはとりあえず聞くということです。ほとんどは本当の事なのだそうです。勉強になりました。＜請閑蓮太＞
- 今日の話は、ちょっと眠かったけれど内容は面白かったです。年配の方のアドバイスはとりあえず聞くという所が良かったです。大事だなと思う部分が沢山ありました。おしゃれに気を使う事は大切です。その場に合った服装を着こなせる人が、しっかりとした大人なのだとして学習しました。共感したのが「真面目過ぎる人にはなるな」でした。中学時代の部活の先生が同じ事を言っていました。真面目なのは悪いことでは無いが、残り少しのバカのひらめきも必要だということを知りました。バカと真面目のハイブリッドがいいと思います。最後に一番心に響いた事があります。それは「後悔は捨てる」と言うことです。僕は後悔したことがあります。ずっとそれが心残りで、考える度に自分はバカだったなと思います。しかし話の中で、後悔は捨てるという言葉が出ました。いつまでも前に進まず、過去をほじくり返していたけれど、このままではだめだということに気がつきました。後悔は捨て、これから生きていきたいです。＜山上未祐也＞